

平成24年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	医療情報システムの相互運用性確保のための対向試験ツール開発事業		担当部局庁	医政局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度～		担当課室	研究開発振興課 医療技術情報推進室		室長：石井安彦	
会計区分	一般会計		施策名	VI-3-7 医療を始めとする社会保障分野の情報化を推進するとともに、社会保障・税に関わる番号制度の実現に向けた検討に参画する			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	平成19年3月：医療・健康・介護・福祉分野の情報化グランドデザイン 平成20年8月：重点計画2008 平成21年4月：デジタル新時代に向けた新たな戦略～三カ年緊急プラン～ 平成21年7月：i-japan戦略2015 平成22年5月：新たな情報通信技術戦略			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	各種情報システムの相互運用性確保を行うことで、医療機関のマルチベンダにおける費用負担の軽減に資するものであり、そのための対向試験ツールの開発。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	医療機関内で使用される各部門系システムについての標準化を進めるため、異なるベンダ(メーカー等)間のシステムを対向試験ツールを使用し、実際に相互に接続して相手のシステムと支障なく情報のやり取りを可能にするための試験を行い、その結果を広く公表するもの。これにより、どのシステム同士が接続可能か把握することができ、その結果でコンポーネント化(部品化)された接続可能なシステムを医療機関が選択して導入することが可能となる。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位：百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		補正予算	/				
		繰越し等	/				
		計	132	108	89	89	30
	執行額	112	105	85	/		
	執行率(%)	84.8%	97.2%	95.5%	/		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	対向試験ツールの結果、相互運用性の確保が確認できたシステム数		成果実績	86	89	86	-
			達成度	%	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	医療機関内の仕様の異なる各システムの相互接続性や互換性を確認するための取組を進めるためのシステムツールの開発を行う。		活動実績(当初見込み)	-	-	-	-
単位当たりコスト	-		算出根拠	-			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	ツール開発費	89	30	システムツールの開発終了に伴う予算減			
	計	89	30				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関内の各システムの互換性等の確保を行い、効率的な医療情報システムの普及を図る上で、ニーズ、優先度ともに高い。 ・標準化したものの普及を目指す上では、引き続き、国が主導して実施。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	△	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画競争入札を行い、事業者を選定しており、競争性は確保している。 ・負担の在り方については毎年見直しを行っており妥当である。 ・事業の実施に必要な支出を行うにあたり実情を勘案し支出を行っている。 ・必要最低限の経費のみの予算計上としている。
	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・成果実績や活動実績から見て他の手段と比較しても実効性の高い手段である。 ・実施要綱に基づいた成果目標を立て、その達成度は着実に向上している。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	点検の結果、特に改善を要する事項は見つからなかった。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	医療情報システムの相互運用性確保のための対向試験ツール開発事業については、異なるベンダ間のシステムを実際に相互に接続して相手のシステムと支障なく情報のやり取りを可能にするための試験を行うための事業であり、本事業の必要性や執行の観点からの評価も概ね妥当であることから、引き続き効率的な執行に努めるべき。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	予算監視・効率化チームの所見は「現状通り」であるが、予算の効率的な執行を図るよう努め、ツール開発費については、平成25年度概算要求において縮減を図った。(▲59百万円)		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	104	平成23年行政事業レビュー	0085

厚生労働省
85百万円

【医療機関内で使用される各部門系システムにつ
いての標準化を進めるための補助】



【企画競争】

A. 一般社団法人 日本IHE協会
85百万円

〔 医療情報システムの相互運用を確保する
ための接続試験用ツールの開発を実施。 〕



【委託・随意契約】

B. 民間会社(3)
78百万円
...(株)グローバルラボ 65百万円

(システム開発)

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.一般社団法人 日本IHE協会			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
委託費	人件費等	40			
人件費	事務局員給与等	19			
旅費	委員等旅費	13			
役務費	資料翻訳	4			
消費税	消費税	4			
借料及び損料	事務機器・サーバー借料等	3			
その他	印刷製本費、消耗品費	2			
計		85	計		0
B.AJS(株)			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	コネクタソンツール開発	21			
計		21	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	一般社団法人日本IHE協会	事務局業務及び報告書作成	85	随意契約	

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	AJS(株)	コネクタソンツール開発(接続性確認検証ツール開発プロジェクト管理)	21	随意契約	
2	デジタルセンセーション(株)	コネクタソンツール開発(オンライン版接続検証ツールの開発)	10	随意契約	
3	(株)グローバルラボ	コネクタソンツール開発(接続性確認検証ツールの拡張開発)	9	随意契約	